

第七回明治神宮體育大會報告書

第七回明治神宮體育大會報告書目次

一、第七回明治神宮體育大會

- 秩父宮殿下を總裁に奉戴.....一
- 第七回明治神宮體育大會.....二
- 第七回明治神宮體育大會役員.....三
- 第七回大會役員選手一覽.....六
- 第七回明治神宮體育大會一覽.....七
- 第七回明治神宮體育大會優勝者氏名.....八
- 明治神宮體育會規約.....一〇

二、競技成績

籠球.....一	水端.....三	庭球.....四
柔道.....二	上.....二	劍.....二
馬術.....六	射.....一〇	相撲.....三
體操.....五	擊球.....七	陸上.....三
卓球.....五	野球.....七	テニス.....三
バドミントン.....五	拳闘.....六	スナックボール.....三

三、競技演武概評

籠球.....一	庭球.....三	庭球.....一
----------	----------	----------

四、準備並に計畫

水相	陸上	排球	足球	柔術	劍道	馬術	體操	射撃	水球	馬術	體操	排球	足球	柔術	劍道	馬術	體操	射撃	水球
.....
.....

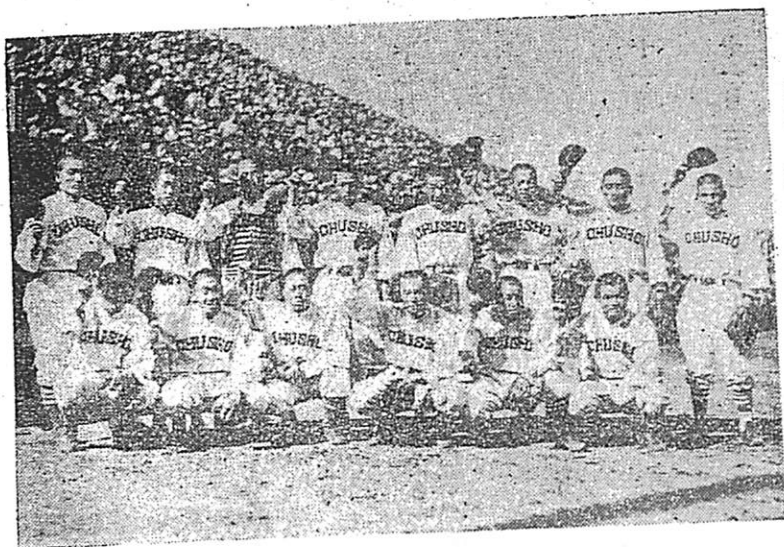
五、庶務並に會計報告

評議員會.....	一
優勝額奉獻式.....	一五
新聞記者招待會.....	一六
惠美、三橋兩事務囑託表彰.....	一六
昭和七年度決算報告.....	一七
第七回明治神宮體育大會收支概算書.....	三三

劍道	柔術	體操	排球	足球	射撃	水球	馬術	體操	排球	足球	柔術	劍道	馬術	體操	射撃	水球
.....
.....

柔術	射撃	馬術	體操	排球	足球	劍道	相撲	陸上	ラケット	卓球	水球	體操	排球	足球	柔術	劍道	馬術	體操	射撃	水球
.....
.....

總務委員會.....	一六
全國體育主事招待會.....	一五
事務所移轉.....	一六
競技會場使用團體打合會.....	一六
昭和八年度決算報告.....	二〇



選拔中等學校優勝中京商業

野 球 試 合

期 日 昭和八年十月三十一日、十一月一、二、三日

場 所 明治神宮外苑球場、戸塚早大球場

東京大學新人試合

優勝 明 治 大 學

第二位 慶 應 義 塾 大 學

全國選拔中等學校試合

優勝 中 京 商 業 學 校

第二位 明 石 中 學 校

野 球 試 合 日 程

月 日	時 刻	種 類	場 所
十月三十一日	前 九、〇〇より	中等學校、東京大學新人入場式	神宮球場
	前二一、〇〇より	東京大學新人試合	
十一月一日	前 八、六〇より	全國選抜中等學校試合	神宮球場
		東京大學新人試合	
	前一〇、〇〇より	全國中等學校試合	戸塚球場
		全國選抜中等學校試合	
十一月二日	前一〇、〇〇より	全國選抜中等學校試合	神宮球場
		東京大學新人試合	
十一月三日	前一〇、〇〇より	東京大學新人試合	神宮球場

野 球 競 技 池 田 豊

七大學新人戦、及選抜中等學校八校の野球戦は十月三十一日より神宮球場及早稲田戸塚グラウンドの双方にて華々しくも大盛を切つた、今夏朝日新聞社主催の全國選抜中等學校大會に於て二十五回の延長戦を演じて球界の記録を破りし中京商業、明石中學の参加あり抽籤の結果、

の両校が勝ち残り優勝戦に相まみゆる事となり大接戦を展開したる等神宮大會に於て野球が獨り大觀衆を集めて盛大裡に終了したる事は大いに喜びに堪えなかつた。

十月三十一日午前九時十分より入場式は開始された。

第六回の優勝校たる早大チームを先頭として法政、日本、立教、慶應、明治、専修の順位。中等學校は第六回の優勝校の主將河陵中學の坂田が優勝旗を持って先頭に北海

立教大學 不戦一勝 (7)

大 學 新 人 戦 組 合

早稲田大學	(1)	慶應	(8A)	慶應	(7)
慶應義塾大學	(4)	明治	(11)	明治	(7)
専修大學	(4)	法政	(1)	法政	(1)
明治大學	(1)	日本大學	(1)	日本大學	(1)
法政大學	(1)	優明	(10A)	勝治	(2)

平安、中京、大正、浪華、松山、松本、明石の順位に入場し中央に整列後各校主將により中堅ボールに國旗掲揚全員起立君ヶ代を奏し終つて、聖恩旗に最敬禮を行ひ新人大學早大よりのトロフィー中等學校より優勝旗の返還式を行ひて十時試合を開始した。

選抜中等學校組合

中京商業	浪華商業	平安中學	松本商業	明石中學	北海中學	大正中學	松山中學
(4)(0)	(1)(3)	(3A)(1)	(1A)(0)				
中京	松本	明石	大正				
(3A)	(1)	(3A)	(0)				
中京		明石					
(3A)		(2)					
		中京商業					
		優勝					

全國選抜中等學校試合

松山中學 一——〇 大正中學

十一月一日午前八時十分より神宮球場に於て森田(球)

本郷、森(壘)三氏審判。松山の先攻に開始。

大	0	0	0	1	0	0	0	0	0	A
松	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	0	—	1A							

◇第一回 「松」 高須賀四球に出るも丸山のバントに封殺を喫し武井三振の後竹内も四球に生きたが二壘走者丸山投手牽制に刺さる。「大」 三浦二捕、吉川投飛の後柚木中前安打に出て捕逸に二進するも阿部三振に終る。

◇第二回 「松」 麻生遊捕岩田二捕大西三振。「大」 藤村中前安打に出るも藤原の二捕に封殺され吉田一二間

に安打したが保手濱遊捕に封殺され樂前三振して無爲。

◇第三回 「松」 久保田一邪飛、名越中飛、高須賀三振。「大」 劈頭三浦右中間に二壘打し吉岡遊捕の後柚木左前に安打し三浦本壘を突き左翼手の好投に憤死柚木二進し三盗を企て、成らず大正はチャンスを作りながら松山の守備固し。

◇第四回 「松」 丸山右前安打に出て武井に送られたが竹内二捕麻生遊捕にて無爲。「大」 阿部投捕の後藤村投手足下を抜く安打し藤原右飛にて死後吉田再度左前に安打し保手濱の四球にて満塁となり樂前の四球に藤村押出しの一點を得、三浦の遊捕樂前を封殺して終る。

◇第五回 「松」 岩田セーフティバンド成らず、大西四球に出で久保田の三捕に二進したが名越三振して無爲。「大」 吉川中飛、柚木三振の後阿部中前に安打し二壘成

らず。

◇第六回 「松」 高須賀山飛、丸山の右中間快打松山中堅手の美技にはまれ、武井右飛。「大」 藤村遊匍、藤原二匍の後吉田三度右前安打するも保手濱遊匍。

◇第七回 「松」 竹内三振の後麻生左前安打岩田四球に續いたが大西三飛、久保田投匍に無爲。「大」 樂前四球に出で三浦の二匍に封殺、三浦は吉川の中飛にマウン

トを間違へしか二壘へ走り中堅手球を一壘に送つて封殺
 ◇第八回 「松」 名越右飛の後高須賀二二間を抜いて出て丸山右飛の後二盗成らず。「大」 柚木遊三間安打阿部右飛の後藤村四球藤原の遊匍に封殺され吉田四球に出たが保手濱遊匍に終る。

◇第九回 「松」 武井中前安打、竹内右翼線に二壘打し無死走者一二壘のチャンスに恵れたが麻生カーヴ攻に逢つて三振し續く岩田の遊匍に武井本三間に狭殺大西二匍して萬事休す。閉戦九時五十七分。

	打	得	安	犠	盗	三	四	刺	補	失
	數	點	打	打	壘	振	死球	殺	殺	策
大	4	0	1	0	0	0	0	2	2	0
正	3	0	0	0	0	0	0	9	0	0
(三)	3	0	3	0	0	1	0	2	3	0
(一)	4	0	1	0	0	1	0	6	1	0
(遊)	3	1	2	0	0	0	1	0	4	0
(捕)	3	0	0	0	0	0	0	2	2	0
(投)	3	0	3	0	0	0	1	3	0	0
(二)	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0
(右)	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0
(左)	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0
(中)	1	0	0	0	0	1	2	3	0	0
計	27	1	10	0	0	3	5	27	12	0

○二壘打、三浦、竹内。

○併殺、丸山―岩田。

○殘壘、松山2、大正5。

○試合時間、一時間四八分。

	打	得	安	犠	盗	三	四	刺	補	失
	數	點	打	打	壘	振	死球	殺	殺	策
山	3	0	1	0	0	1	1	2	0	0
須賀	4	0	1	0	0	0	0	2	0	0
山	3	0	1	1	0	1	0	4	6	0
井	3	0	1	0	0	1	1	4	2	0
内	4	0	1	0	0	1	0	1	1	0
生	3	0	0	0	0	0	1	7	0	0
田	3	0	0	0	0	0	1	2	4	0
西	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0
保	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0
田	3	0	0	0	0	1	0	2	0	0
越										
計	29	0	5	1	0	5	4	24	14	0

明石中學 三A — 北海中學

十一月一日午前十一時三分より神宮球場に於て、小林(球)森田、本郷(壘)三氏審判の下に、北海の先攻に開始。

明	0	1	0	0	0	2	0	A	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
北	0	0	0	1	0	0	0	0	0
									3A
									1

◇第一回 「北」 相原捕飛、坂上相馬共に三振。「明」山田四球に出で永尾に送られ續く楠本の右翼安打に山田本壘を突く可能性充分なるも何を思つてか三壘に止り中田、深瀬共に三振して好機を逸す。

◇第二回 「北」 角田三振の後宮崎、太田共に四球を得(明石楠本を退けて中田投手となり山田中堅、田口右

翼に入る)が大和田の二飛に太田離壘して併殺。「明」横内一筋の後加藤中前に安打し福島の二筋に加藤二進し峰本の遊三間安打に生還したが峰本は左翼手本投の間に二壘へ走り投手此の球をカットして峰本を二壘上に刺す

◇第三回 「北」 濱二筋、佐々木中飛、相原三筋失二盗成つたが坂上三振。「明」 山田右飛、永尾一筋、田中遊筋。

◇第四回 「北」 (明石、田口退き峰本右翼、加藤遊撃となり吉岡二壘に入る) 相馬、角田共に四球宮崎に送られ太田の二筋失に相馬生還したが太和田のスクイズパン

ト投飛となつて角田を併殺。「明」 中田二飛、深瀬投筋、横内投筋。

◇第五回 「北」 濱中飛、佐々木四球、相原遊三間安打、坂上四球にて満塁となつたが相馬角田共に三振して

無爲。「明」 加藤遊筋福島右飛峰本一筋。

◇第六回 「北」 宮崎、太田、大和田三者三振。「明」

山田中飛の後永尾二壘右の安打に出たが田口の三筋に封殺され中田二飛。

◇第七回 「北」 濱三振佐々木投筋相原三振。「明」

深瀬遊筋失に出で横内に送られ加藤の三筋失に三進、福島遊筋して深瀬生還加藤二進續く峰本右中間三壘打して加藤生還山田遊飛して終る。

◇第八回 「北」 坂上のセフテーパーント成らず相馬角田共に三振。「明」 永尾投筋、吉岡三筋、中田二筋。

◇第九回 「北」 宮崎三振、岡田投筋の後大和田黒川一二回安打したが濱の代打星野の遊筋に封殺されて終る。

閉戦午後一時。

	打	得	安	犠	盗	三	四	刺	補	失
	数	点	打	打	壘	振	死球	殺	殺	策
明	3	0	0	0	0	0	1	2	0	0
石	3	0	1	1	0	0	0	1	0	1
(右中)	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
(三)	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1
(投)	2	0	0	0	0	1	0	1	3	0
(右)	4	0	0	0	0	1	0	0	0	0
(二)	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0
(中投)	2	0	0	1	0	0	0	5	0	0
(左)	3	2	1	0	0	0	0	1	3	0
(一)	3	0	0	0	0	0	0	15	2	0
(二遊)	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(捕)	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0
(遊右)	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0
計	28	3	5	2	2	2	1	27	8	2

	打	得	安	機	盜	三	四	刺	補	失
	數	點	打	打	壘	振	死球	殺	殺	策
北	4	0	1	0	1	1	0	0	1	0
海	3	0	0	0	0	2	1	1	0	0
(左)	3	1	0	0	1	3	1	1	4	0
(中)	3	0	0	0	0	2	1	2	0	0
(投)	3	0	0	0	0	1	1	0	2	1
(一)	3	0	0	0	0	1	0	3	2	0
(右)	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(三)	0	0	1	0	0	0	0	2	1	0
(PH)	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0
(捕)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(PH)	2	0	0	0	0	0	1	2	4	1
(遊)										
計	27	1	2	1	2	14	6	24	14	2

- 三壘打、峰本。
- 併殺、加藤—横内。中田—永尾。
- 殘壘、北5。明4。
- 試合時間、一時五十七分。

松本商業三——〇平安中學

戸塚球場の第一戦松本商對平安中學の試合は十一月一日午前八時二十三分より片桐(球)齊藤、島(壘)三氏審判の下に松商の先攻に開始。

平	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
松	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0
										3

◆第一回「松」百瀬三振、中村一飛の後北原中越三壘打し小林の遊捕失に還へり山崎死球に出壘赤羽右前安打に小林生還二點を先取菅野投匁。「平」波利三振。半田右飛、岡村三振。

◆第二回「松」小林(辰)二匁失に二壘迄進んだが西澤三振、百瀬遊飛、中村遊匁。「平」堀添投匁、高木

遊匁、田中三匁。

◆第三回「松」北原遊匁、小林右飛、山崎二匁。

「平」奥田投匁の後富永四球光林左翼安打に出たが波利三振、半田投匁。

◆第四回「松」赤羽投匁、菅野右飛、小林(辰)右飛。「平」岡村四球に出で堀添に送られ高木も四球に出たが田中三振、奥田一邪飛にて無爲。

◆第五回「松」西澤遊匁、百瀬二匁の後中村四球に出で北原の左越二壘打に還へり小林三振。「平」富永遊匁、光林三匁、波利右飛。

◆第六回「松」山崎投匁赤羽中飛の後菅野四球小林(辰)三匁失に出たが西澤投匁。「平」半田三匁、岡村左翼安打に出たが二盜成らず堀添二匁。

◆第七回 「松」百瀬内野安打に出で中村三振の後北原三捕失に生きたが小林中飛、山崎投捕に無為。「平」高木投捕、田中三捕、奥田四球富永三振。

◆第八回 「松」赤羽三越安打に出たが菅野の投捕に赤羽封殺され小林(辰)三振の後西澤の遊捕に菅野封殺「平」(松本、菅野退き小林二壘となり平林三壘に入る)波利二壘左を抜く安打で半田遊飛の後波利盗壘成り岡村四球に出たが堀添の遊捕に岡村封殺。

◆第九回 「松」百瀬三捕の後中村四球に出たが北原の三捕に封殺され小林遊飛。「平」高木一捕の後田中の代打山本四球に奥田の代打宇野左翼安打に出たが、日高(富永の代打)の投捕宇野を封殺光林三捕に終る。閉戦十時二十分。

	打	得	安	犠	盗	三	四	刺	補	失
	数	点	打	打	壘	振	死球	殺	殺	策
平										
(遊)	波	4	0	1	0	1	2	0	3	4
(左)	利	4	0	0	0	0	0	0	0	0
(中)	田	2	0	1	1	1	2	2	0	0
(捕)	村	3	0	0	0	0	0	5	0	0
(投)	添	3	0	0	0	1	0	0	11	0
(三)	木	3	0	0	0	0	0	0	2	0
(PH)	中	0	0	0	0	0	1	0	0	0
(一)	本	2	0	0	0	0	0	1	12	0
(PH)	田	1	0	1	0	0	0	0	0	0
(右)	野	2	0	0	0	1	1	1	3	0
(PH)	永	1	0	0	0	1	0	0	0	0
(二)	富	4	0	2	0	1	0	0	2	2
	日									
	高									
	林									
計		29	0	5	1	6	5	6	27	19
										2

○三壘打、北原。
○二壘打、北原。
○盗壘、松9、平7。
○試合時間、一時五十七分。

	打	得	安	犠	盗	三	四	刺	補	失
	数	点	打	打	壘	振	死球	殺	殺	策
商										
瀬	5	0	1	0	0	1	0	2	1	0
村	3	1	0	0	0	1	2	5	1	0
原	5	1	2	0	1	0	0	3	4	0
林	5	1	0	0	0	1	0	0	0	0
崎	3	0	0	0	0	0	1	0	11	0
羽	4	0	2	0	0	0	0	15	0	0
野	3	0	0	0	0	0	1	0	3	0
林	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
辰	4	0	0	0	0	1	0	1	1	0
澤	4	0	0	0	0	1	0	0	0	0
計	36	3	5	0	1	5	4	27	22	0

中京商業 七A—O 浪華商業

曰く付きの浪商中商の一戦は戸塚球場に於て十一月一日午十一時五分より片桐(球)島、齊藤(壘)三氏審判浪商先攻に開始。

中	4	0	0	0	0	0	0	0	A
浪	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	1	1	1	1	1	1	1	4A
	0	1	1	1	1	1	1	1	0

◆第一回 「浪」平井三振、樋上遊飛、北浦三振。

「中」大野木右飛後福谷四球吉田左前安打に出た後杉浦左翼越二塁打して福谷生還、田中四球で満塁となり神谷の二筋は野手本塁に高投して、吉田、杉浦生還、田中、神谷二三進岡田遊撃背後にテキサス安打して田中も還り野口三振の後岡田二盗を試みて刺されたが四點を先取

◆第二回 「浪」中村遊越安打して出納家、松廣二者三振後二盗で刺さる。「中」鬼頭左飛、大野木三振、福谷三筋。

◆第三回 「浪」畑右飛、常念、鳥丸共に三振。「中」吉田投筒、杉浦右飛、田中一直。

◆第四回 「浪」平井三振、樋上三筋、北浦三振。

「中」神谷二筋、岡田右飛の後野口三越安打に出たが鬼頭左飛にて無爲。

◆第五回 「浪」中村、納屋、松廣三者三振。「中」

大野木飛筒、福谷、吉田共に三筋兩投手の好投に試合は簡単に進む。

◆第六回 「浪」畑、常念、鳥丸共に三振。「中」杉浦三筋、田中二飛の後神谷四球に出たが岡田の二筋に神

谷封殺。

◆第七回 「浪」劈頭平井左中間に三塁打を放つたが樋上、北浦、中村共に遊筒にて後援續かす。「中」野口三筋の後鬼頭二塁右を抜く安打に出たが大野木右飛、福谷の遊筒鬼頭を封殺して無爲。

◆第八回 「浪」納家、松廣共に三振、畑遊筒。「中」吉田三筋の後杉浦四球に出で、田中の一二間安打に三進し神谷の四球に満塁となつたが岡田の二筋神谷を併殺して無爲。

◆第九回 「浪」常念の代打馬淵三振、鳥丸四球に出たが平井投飛、樋上遊飛で終る。閉戦〇時三五分。

打	得	安	犠	盗	三	四	刺	補	失
數	點	打	打	壘	振	死球	殺	殺	策
4	0	0	0	0	1	0	0	0	0
3	1	0	0	0	0	1	0	1	0
4	1	1	0	0	0	0	1	0	0
3	1	1	0	0	0	1	2	5	0
3	1	1	0	0	0	1	6	0	0
2	0	0	0	0	0	2	0	0	0
4	0	1	0	0	0	0	1	0	0
3	0	1	0	0	1	0	17	1	0
3	0	1	0	0	0	0	0	0	0
計	29	4	6	0	2	5	27	7	0

中	商
(左)	大野木
(三)	福吉谷
(投)	杉浦田
(遊)	杉浦中
(一)	田神谷
(二)	岡野田
(右)	野野口
(捕)	鬼頭
(中)	

浪	商	打	得	安	犠	盗	三	四	刺	補	失
		數	點	打	打	壘	振	死	殺	殺	策
(三)	井上浦村家廣	4	0	1	0	0	2	0	0	6	0
(二)	原樋北中納松畑常馬鳥	4	0	0	0	0	0	0	2	2	1
(捕)	念淵丸	3	0	0	0	0	2	0	2	1	0
(中)		3	0	1	0	0	1	0	0	0	0
(投)		3	0	0	0	0	3	0	0	2	0
(右)		3	0	0	0	0	3	0	4	0	0
(左)		3	0	0	0	0	1	0	2	0	1
(一)		2	0	0	0	0	2	0	11	0	0
(PH)		1	0	0	0	0	1	0	0	0	0
(遊)		2	0	0	0	0	2	1	3	3	0
計		28	0	2	0	0	17	1	24	14	2

- 三塁打、平井。
- 二塁打、杉浦。
- 併殺、樋上—鳥丸—常念、
- 殘壘、浪2、中6。
- 試合時間、一時間三十五分。

明石中學 三A—O 大正中學

中等準決勝は先づ明石中學對大正中學に依つて十一月三日午後〇時二分に神宮球場に於て藤田(球)本郷、片桐(壘)三氏審判、大正の先攻に開始さる。

明	0	1	0	0	2	0	0	0	0	A
一	二	三	四	五	六	七	八	九		
大	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
										3A
									0	—

◇第一回「大」三浦中飛の後吉川遊甬ファンブルに生きたが柚木の投甬に刺殺され阿部左飛。「明」山田中前安打に出て永尾三振の後横内右前安打して山田三進したが中田左飛にて死後横内二盗に刺されて無爲、

◇第二回「大」藤村投甬、藤原三振の後吉田、保手

濱共に四球に出たが樂前の遊甬野手ファンブルするも保

手濱を封殺。「明」寺岡遊擊左に安打し深瀬に送られ加藤の左前安打に三進し福島のスライズプレー成つて一點を先取し峰本も四球で満塁となつたが福島二塁で投手牽制に刺され山田三振に終る。

◇第三回「大」三浦右飛、吉川遊甬、柚木三甬。「明」永尾、横内共に投甬、中田二甬。

◇第四回「大」阿部四球に出で藤村のバント内野安打となつたが、藤原のバントは阿部を三塁に封殺し吉田の投甬は藤村を封殺、捕逸に藤原吉田二三進したが保手濱三振に終る。「明」吉岡中前安打に出て深瀬のバントは吉岡を封殺し加藤の遊甬に深瀬併殺。

◇第五回「大」樂前三振の後三浦四球に出たが、吉川、

柚木共に右飛「明」福島中飛の後峰本左前安打し山田の

二壘に封殺されたが、永尾右前に安打して山田を進め横内四球で満塁となり中田右中間に安打して山田、永尾を還したが横内三盗を企て中一捕一三のリレーにて刺さる

◆第六回「大」阿部捕邪飛後藤村四球に出たが藤原三振の後吉田の遊脩に封殺さる。「明」吉岡三飛、深瀬中飛の後加藤左翼線近くに安打したが福島三壘に終る。

◆第七回「大」保手濱四球、樂前遊脩失に二者出たが三浦三振し、吉川の遊脩に樂前封殺、吉川二盗成らずして無爲。「明」柚本三壘高投に生き山田中飛の後永尾四球を得たが横内右飛、中田二壘。

◆第八回「大」柚木阿部共に三振の後藤村四球を得たが藤原二壘。「明」吉岡遊脩失、楠本(深瀬の代打)四球に(代走田口)出たが加藤のバントは深瀬を封殺、福島の二壘は加藤を併殺して終る。

◆第九回「大」吉田二壘、保手濱中飛、樂前三振にて三對〇明石決勝に残る。閉戦二時二分。

打	得	安	犠	盗	三	四	刺	補	失
數	點	打	打	壘	振	死	殺	殺	策
4	1	1	0	0	1	0	2	0	0
3	1	1	0	0	1	1	2	1	0
3	0	1	0	0	0	1	5	0	0
4	0	1	0	0	0	0	0	4	0
4	1	2	0	0	0	0	2	2	0
2	0	0	1	0	0	0	1	0	0
0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	0	2	0	0	0	0	3	3	2
4	0	0	0	0	0	0	9	1	0
2	0	1	0	0	0	1	3	0	0
30	3	9	1	0	2	4	27	11	2

明石
 (中) 山田
 (三) 永尾
 (一) 横内
 (投) 中田
 (二) 吉岡
 (左) 深瀬
 (PH) 楠本
 (左) 田口
 (遊) 加藤
 (捕) 福島
 (右) 峰本

○併殺、柚木—吉川。藤原—柚木—吉川。

○捕逸、福島。

○殘壘、大正5、明石5。

○試合時間、二時間。

大	正	打	得	安	犠	盗	三	四	刺	補	失
(三)	(一)	(遊)	(捕)	(投)	(二)	(右)	(左)	(中)	計		
浦川	3	0	0	0	0	1	1	3	2	1	0
木部	4	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0
村原	4	0	0	0	0	1	1	5	2	1	0
田中	3	0	0	0	0	1	1	2	2	0	0
濱前	2	0	1	0	0	0	2	0	7	0	0
手前	3	0	0	0	0	0	2	3	3	0	0
吉保	3	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0
藤吉	2	0	0	0	0	2	2	1	1	0	0
阿保	2	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0
藤保	4	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0
樂前	4	0	0	0	0	2	2	3	0	0	0
計	28	0	1	0	0	8	7	24	16	2	

中京商業三A——松本商業

準決勝の第二戦中京商業對松本商業の試合明石大正の後をうけて十一月二日午後三時三十分より神宮球場に於て森田(球)片田、片桐(壘)三氏審判の下に松本の先攻を開始。

中	0	0	0	0	2	0	1	A
松	0	0	0	0	1	0	0	0
								3A
								1

◆第一回「松」百瀬二匁の後中村四球に出で北原右飛にて死後小林(一)中前安打したが山崎右飛。「中」大野木遊匁、福谷三振、吉田遊匁。

◆第二回「松」赤羽、平林、小林(辰)共に三振。「中」杉浦四球に出たが田中バントに封殺福谷中飛の後

手二壘牽制高投を中堅手後逸して小林(一)を選へし、平林二進、小林(辰)三振したが捕手の失策に生き平林は投手一壘牽制に三壘を出過ぎ一壘手轉送に本三間に狭まれて刺されたが一点先取。「中」鬼頭四球に出で大野木の投手左のバント内野安打となつて兩者生き鬼頭一壘三進で、福谷の投直に大野木併殺されたが、吉田右中間に二安打して鬼頭を還へし吉田は捕手ファンブルに乗じ三盗して生き杉浦の三匁低投に生還田中は二匁に終る。

◆第七回「松」西澤遊匁共に生きたが百瀬のバントに封殺され中村三振、北原二飛に終る。「中」神谷遊匁失に生き岡田に送られたが野口三振、鬼頭遊匁に無爲。

◆第八回「松」小林(一)三振の後山崎四球に出たが、赤羽左飛、平林三振。「中」大野木、福谷共に三匁後吉田中堅右へ快打本壘打となつて一点を加へ杉浦左翼。

◆第九回「松」小林(辰)四球に出たが西澤捕邪飛、百瀬三振、中村一匁して萬事休す。閉戦四時五十分。

岡田の遊匁は田中を封殺。

◆第三回「松」西澤三越安打に出たが百瀬の三匁に封殺され中村三振の後北原も中前に安打したが小林(一)の二匁北原を封殺。「中」野口三邪飛の後鬼頭四球に出たが大野木の遊三間ゴロ北原遊撃手の美技に鬼頭封殺され福谷遊匁に終る。

◆第四回「松」山崎二飛の後赤羽四球に出たが平林三振し小林(辰)も四球に生きたが西澤投匁。「中」吉田右飛、杉浦三振、田中投匁。

◆第五回「松」百瀬三振、中村三振、北原二匁。「中」神谷右翼線に二安打し岡田に三壘へ送られ野口の三匁に本壘を突いて狭殺される、その間に野口三進したが野口捕手の逸球に本壘奪取を企てたが成らず。

◆第六回「松」小林(一)四球に生き山崎捕邪飛、赤羽左飛にて二死となり小林二盗の後平林も四球に出で捕

	失策	補殺	刺殺	四死球	三振	盗壘	機打	安打	得点	打数
中	0	0	2	0	0	0	0	1	0	4
京	0	3	0	0	1	0	0	0	0	4
木谷	1	0	0	1	0	0	0	0	0	4
野	0	2	3	0	0	0	0	0	0	3
田	0	1	5	0	0	0	0	0	0	3
浦	0	2	4	0	0	0	2	0	0	3
中	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1
谷	2	3	11	0	1	0	0	0	1	3
田	0	0	0	2	0	0	0	0	1	1
口										
頭										
計	3	11	27	3	3	1	2	4	3	26

	打	得	安	犠	盗	三	四	刺	補	失
	数	点	打	打	塁	振	死球	殺	殺	策
松	5	0	0	0	0	1	0	0	0	0
本	4	0	0	0	0	3	1	2	3	1
(左)	4	0	1	0	0	0	0	4	5	0
(捕)	3	1	1	0	1	1	1	2	0	1
(遊)	3	0	0	0	0	0	1	2	4	0
(中)	3	0	0	0	0	0	1	1	1	0
(投)	3	0	0	0	0	1	1	10	1	0
(一)	3	0	0	0	0	3	1	3	1	0
(二)	3	0	0	0	0	1	2	1	4	0
(三)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(左)	4	0	1	0	0	0	0	0	0	0
計	50	1	3	0	1	10	7	24	18	2

- 本塁打、吉田。
- 二塁打、脇谷、吉田。
- 併殺、山崎—赤羽。
- 盗塁、松5、中3。
- 試合時間、一時間五十分。

中京商業三A—二明石中學

中等學校の類は中京明石兩横綱の間に争はれる事となり、人氣益々沸られて神宮球場立錫の餘地なき盛況。試合は午前十時より球審森田、塁審鏡村、森三氏審判の下に明石の先攻に開始せられた。

中 京	明 石
敵	敵
安打	安打
得点	得点
回数	回数
0	0
2	1
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
1	0
1	0
A	A
5	2
3	2
計	計
3A	2
5	3
4	2

◆第一回「明」山田中飛、永尾遊匍の後横内中前左に塁打したが二盗成らず。「中」大野木四球に出で脇谷

に送られ吉田中飛を奪げ杉浦四球に續いたが田中の遊飛杉浦を封殺。

◆第二回「明」中田四球に出吉岡のバント投手二塁へ高投し兩者を生かし深瀬のバント三塁に中田を封殺したが、加藤四球に續き脇谷の意表外に出たスクイズ成つて吉岡生還一點を先取し峰本遊匍に終る。「中」神谷遊匍高投に生き岡田に送られ、野口の投匍に神谷三進し鬼頭の二匍悪投に神谷生還し大野木中飛に終る。

◆第三回「明」山田投匍、永尾二飛、横内遊匍。「中」脇谷中飛、吉田三飛にて二死後杉浦左翼左に二塁打し田中四球の後神谷の一二間塁打に杉浦生還し岡二匍
 ◆第四回「明」中田三振、吉岡三匍、深瀬三振。「中」野口遊直、鬼頭二匍、大野木投匍。

◆第五回「明」加藤三匍、脇谷遊匍、峰本三飛。「中」脇谷二邪飛、吉田遊匍、杉浦三振。

◆第六回「明」山田、永尾投匍の後横内中堅右に二

壘打し、續く中田右中間に三壘打して横内生還したが吉岡遊捕に終る。「中」 田中右飛、神谷三捕、岡田三捕。

◇第七回 「明」 深瀬遊飛、加藤投捕、福島投捕。
 「中」 野口四球に出で鬼頭のバント内野安打となつて二
 者生きたが野口オーバーラン三間に狭殺されたがその
 間に鬼頭二進し大野木右中間に安打して鬼頭生還、藤谷
 四球に出たが吉岡の遊捕に封殺され二盗なつたが、杉浦
 中飛。

◇第八回 「明」 峰本遊捕、山田中飛。永尾中飛。
 「中」 (明石峰本退き田口右翼に入る) 田中捕邪飛、神
 谷一捕の後岡田右前安打に出で野口の三捕岡田を封殺せ
 んとしたが二壘手落球して二者生きたが鬼頭左飛にて無
 爲。

◇第九回 「明」 横内三捕低投に生きたが中田左飛の
 後吉岡の遊捕に封殺され楠本(深瀬の代打) 捕邪飛にて
 終る。閉戦十一時五十六分。

	打 數	得 點	安 打	犠 打	盜 壘	三 振	四 死 球	刺 殺	封 殺	失 策
中	3	0	1	0	0	0	1	0	0	0
京	2	0	0	1	0	0	0	2	2	1
(右)	4	0	0	0	1	0	1	2	8	0
(三)	3	1	1	0	0	0	1	14	0	0
(投)	3	0	0	0	0	0	0	2	0	0
(遊)	4	1	1	0	1	0	0	1	0	0
(一)	3	0	1	1	0	0	0	3	1	0
(二)	3	0	0	0	0	0	1	3	1	0
(左)	3	0	0	0	0	0	0	3	0	0
(捕)	4	1	1	0	0	0	0	3	0	0
(中)										
計	29	3	5	2	2	1	5	27	17	2

	打 數	得 點	安 打	犠 打	盜 壘	三 振	四 死 球	刺 殺	補 殺	失 策
明	4	0	0	0	0	0	0	4	0	1
石	4	0	0	0	0	0	0	1	4	0
(中)	4	1	2	0	0	0	0	10	2	0
(三)	4	0	1	0	0	0	0	2	3	0
(一)	3	0	1	0	0	0	0	1	2	1
(投)	4	1	0	0	0	0	0	1	2	0
(二)	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(左)	3	0	0	0	0	0	0	1	0	0
(PH)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(遊)	2	0	0	0	0	0	1	2	3	1
(捕)	2	0	0	1	0	0	0	2	0	0
(右)	3	0	0	0	0	0	0	1	0	0
(右)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	30	2	3	1	0	2	2	24	14	3

○三壘打、中田。

○二壘打、横内。

○遊擊、明3、中0。

○試合時間、一時間五十五分。

(選抜中等學校チーム成績) (打率順)

チーム	試合数	勝数	敗数	勝率	打数	得点	安打	二壘打	三壘打	本壘打	壘打数	犠打	盗塁	三振	四死球	打率	刺殺	補殺	失策	守備率
中京	3	3	0	1.000	74	11	15	3	0	1	21	4	2	5	13	.203	81	37	5	.956
大正	2	1	1	.500	55	1	11	0	0	0	11	0	0	11	12	.200	51	28	2	.975
明石	3	2	1	.667	88	9	17	1	2	0	23	4	2	7	7	.192	78	28	7	.939
松山	1	0	1	0	29	0	5	1	0	0	6	1	0	5	4	.172	24	14	0	1.000
平安	1	0	1	0	30	0	5	0	0	0	5	0	6	5	6	.167	27	19	4	.920
松本	2	1	0	.500	66	4	8	0	0	0	8	0	2	15	11	.121	51	40	3	.968
北海	1	0	1	0	27	1	2	0	0	0	2	1	2	14	6	.074	24	14	2	.950
浪華	1	0	1	0	28	0	2	0	1	0	4	0	0	17	1	.071	24	16	2	.952

(選抜中等學校個人成績) (二試合以上出場者)

シート	氏名	學校	試合数	打数	得点	安打	二壘打	三壘打	本壘打	壘打数	犠打	盗塁	三振	四死球	打率	刺殺	補殺	失策	守備率
(投)	藤	村(大)	2	5	1	3	0	0	0	3	0	0	2	1	.600	0	11	0	1.000
(投)	楠	本(明)	3	2	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	.500	0	0	0	0
(右)	吉	田(大)	2	6	0	3	0	0	0	3	0	0	0	2	.500	4	0	0	1.000
(遊)	柚	木(大)	2	7	0	3	0	0	0	2	0	0	2	0	.429	7	5	1	.923
(遊右)	峰	本(明)	3	8	0	3	0	1	0	5	0	0	0	1	.375	4	0	0	1.000
(一)	横	内(明)	3	9	1	3	1	0	0	4	1	0	0	1	.333	20	2	0	1.000
(二遊)	加	藤(明)	3	9	2	3	0	0	0	3	0	0	0	1	.333	6	8	3	.800
(遊)	北	原(松商)	2	9	1	3	0	0	0	3	0	1	0	0	.333	7	9	1	.941
(一)	赤	羽(松商)	2	7	0	2	0	0	0	2	0	0	1	2	.286	25	1	0	1.000
(投)	吉	田(中)	3	12	3	3	1	0	1	7	0	1	0	0	.250	1	8	1	.900

		幽 鬱											用 長 長						
(右)	佃	(中)	3	8	1	2	0	0	0	2	3	0	0	0	.250	4	0	0	1.000
(中)	鬼	頭	(中)	3	8	2	2	0	0	0	2	0	0	0	.250	3	0	0	1.000
(遊)	杉	浦	(中)	3	9	2	2	2	0	0	4	0	0	2	.222	7	13	1	.952
(二)	神	谷	(中)	3	9	1	2	0	0	0	2	0	1	0	.222	6	2	0	1.000
(三)	永	尾	(明)	3	10	1	2	0	0	0	2	1	0	1	.200	4	5	1	.900
(二)	吉	岡	(明)	3	10	2	2	0	0	0	2	0	1	1	.200	5	4	2	.818
(中接)	中	田	(明)	3	11	1	2	0	1	0	4	0	0	1	.182	7	6	0	1.000
(左)	大	野	木	(中)	3	11	0	2	0	0	0	2	0	0	.182	2	0	0	1.000
(三)	三	浦	(大)	2	7	0	1	0	0	0	1	0	0	1	.143	5	4	1	.900
(捕)	阿	部	(大)	2	7	0	1	0	0	0	1	0	0	2	.143	8	3	0	1.000
(中)	小	林	(一)	(松商)	2	8	2	1	0	0	0	1	0	1	.125	2	0	0	1.000
(左)	西	澤	(松商)	2	8	0	1	0	0	0	1	0	0	1	.125	0	6	0	1.000
(一)	田	中	(中)	3	9	1	1	0	0	0	1	0	0	0	.111	27	1	0	1.000

(捕)	野	口	(中)	3	9	0	1	0	0	0	1	0	0	1	.111	29	7	2	.947	
(左)	百	瀬	(松商)	2	10	0	1	0	0	0	1	0	0	2	.100	2	1	0	1.000	
(左中)	山	田	(明)	3	11	1	1	0	0	0	1	0	1	1	.091	8	0	1	.889	
(三)	福	谷	(中)	3	9	1	0	0	0	0	0	0	0	1	.2	0	2	6	1	.889
(左右)	田	口	(明)	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(左)	深	瀬	(明)	3	8	1	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	2	0	0	1.000
(捕)	福	島	(明)	3	9	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	26	3	0	1.000
(一)	吉	川	(大)	2	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	0	0	1.000	
(二)	藤	原	(大)	2	6	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	5	5	0	1.000
(左)	保	手	濱	(大)	2	5	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	1	0	0	1.000
(中)	樂	前	(大)	2	5	0	0	0	0	0	0	0	0	3	2	0	6	0	0	1.000
(捕)	中	村	(松商)	2	7	1	0	0	0	0	0	0	0	4	3	0	7	4	0	1.000

		備											五長六					
(投)	山崎(松商)	2	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	15	1	.914
(三二)	小林(辰)(松商)	2	5	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	2	5	1	.857
(三)	平林(松商)	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	4	1	0	1.100

(一試合出場者)

シート	氏名	學校	試合數	打數	得點	安打	二壘打	三壘打	本壘打	壘打數	犠打	盜壘	三振	四死球	打率	刺殺	補殺	失策	守備率
(PH)	黒川(北)	川(北)	1	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1.000	0	0	0	0
(PH)	宇野(平)	野(平)	1	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1.000	0	0	0	0
(二)	光林(平)	林(平)	1	4	0	2	0	0	0	2	0	1	0	0	500	2	2	0	1.000
(中)	岡林(平)	林(平)	1	2	0	1	0	0	0	1	0	0	1	2	500	2	0	0	1.000
(中)	中村(浪)	村(浪)	3	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	333	0	0	0	0
(右)	高須賀(松中)	須賀(松中)	1	3	0	1	0	0	0	1	0	0	1	1	333	2	0	0	1.000

(遊)	武井(松中)	井(松中)	1	3	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	333	4	6	0	1.000
(捕)	竹内(松中)	内(松中)	1	3	0	1	1	0	0	2	1	0	1	0	333	4	2	2	1.000
(三)	平井(浪)	井(浪)	1	4	0	1	0	1	0	3	0	0	2	0	250	0	6	0	1.000
(左)	相原(北)	原(北)	1	4	0	1	0	0	0	1	0	1	1	0	250	0	1	0	1.000
(遊)	波利(平)	利(平)	1	4	0	1	0	0	0	1	0	1	2	0	250	3	4	1	.875

試合數打一率零ノモノハ採録セズ

競技演武概評



野 球

池 田 豊

中等學校之部

松山中學對大正中學

一A對零といふスコアが示す如く、兩軍共無失策の好試合を演じた。全回を通じて大正は攻撃に於て松中を壓迫して居つたが、走者の強引な本壘猪突等で三回の好機を逸してしまつたが四回に一死後藤村吉田の安打と保手濱の四球に滿壘の好機を掴

み、終に業前の四球が出て一點を獲得して前半を終つた。この一點が最後迄取りかへせずして、松山が敗れやうとは思はれなかつたが、松山の各打者は、大正の藤村投手のアウトロと直球に健棒を封じられて得點の機會なく、只だ僅に九回に於て絶好のチャンスをつかんだが藤生三振岩田の遊撃は武井を三壘本壘間に狭んで

刺し、大西二筋して遂に止み一敗地に塗れた。最終回であり、松山中學に唯一のチャンスであつたし、大正との得點差一點であつたのであるが、強氣に出ず正攻法を取る可きではなかつたらうか、要するに大正の勝因は、松山の投手藤生が單調なるに乗し、藤村がアウトロを主要武器としてよく松山の攻撃を封じると同

時に、柚木、吉田の各三本の安打を筆頭に全軍よく打ち松山を壓したことが大なる勝因である。

松山中學が、最終回の攻撃に於て今一息の力があつたならば、勝敗は轉倒して居つたことと思ふが、兩軍が守備に秀で、無失策の記録を残したことは賞賛すべきである。

中京商業對浪華商業

今夏の大會に、失策によつて敗れた浪華であるだけこの試合は、非常な興味を以て迎えられたが中京が一回に四點といふ大量得點をして、試合は決定されたものとなつて終に、再び敗れたのであつた。それにしても中京吉田投手の大膽過ぎる程のピ

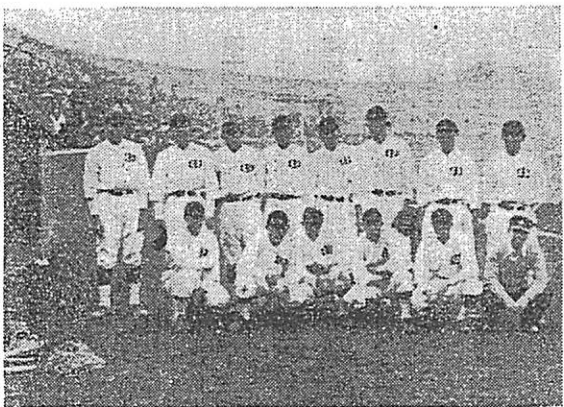
ツチングには、感服の外はなかつた。浪華商業の各打者が、バットのヘヂを握り、強振して肩のところを通る直球を振つて、徒らに三振して結局十七の多きを算したことは、一考を要すると思ふ。何故に攻撃方法を變更しなかつたらうか、速球に對しての打法を取れば、或はもつと肉薄出來得たと信ずる。其の上七回に入り平井が無死にして二壘打した時に、何故に一點でも得點する事に努めなかつたらうかと、不思議に堪えない。四點の開きは或は勝敗の分岐點であるかも知れないが、一點でも喰込んで行くところに強味があるのではないだらうか。

要するにこの日の浪商の打力で、到底中京のこの四點を挽回することは困難であり、スコアの上に示された如く三振十七、安打二、壘に走者を置く事、僅に三人では止むを得ぬ敗北と云ふ可く、それにしても一方中京にあつて一人好投する吉田投手のコントロールよきに、徒らに賞讃の辭を呈するのみである。中京は樂々と一勝者となり準決勝に臨むことゝなつた。

松本商業對平安中學

平安はスタートに於て、完全に松商にリードされて了ひ、松商は反對にこの好調の波に乗つて平安を敗つたと云ひ得やう。即ち、コントロール

に亂れを見せる山崎投手が、下手投げのインシュートする球をチェンヂ、オブ、ベースに成功して平安打者を封じ、守備に於ても連絡よくこれが松商の勝因であつた。その上に主將北原が一回に於ける三壘打と、五回に於ける二壘打と、彼が攻撃に於て松商得點の因をなし、又一方、守備にも立派な技倆を示したことの殊勳を、見逃す事は出来ない。要するに松商は幸運であり、平安は不運であつたと云ひ得る。四回に於ける危機八回に於ける平安のチャンスも松商が脱して居なかつたならば、この試合の勝運は、何れに傾いて居つたかも知れないのである。



野球中學 勝優 校學等中球野

五角の兩軍の成績から見ても、松商は得點の機會に完全に得點し、平安は松商の好守に得點の機を阻まれたの

に對して、滿腔の敬意を表するものである。

明石中學對北海中學

三A對一といふスコアは、明石の順當な勝利のやうであるが、明石の至實投手楠本が脚氣の爲め足が利かず、その爲めにコントロールが亂れ、攻撃力に一段の弱味を加へた結果と、救援の中田投手もコントロール亂れて制球力なく、その結果からして苦戦したことは當然であり、北海が四回に迎へしチャンスを完全に掴み、なほ五回の好機をものにして居つたならば、或はこの強剛明石を破つたかも知らなかつた。

一方明石は、一回楠本の右翼安打

を山田がフアウルと誤信して生還の機を逸したが、二回に峰本の安打で一塁を取つたものゝ、四回に北海に二塁を献じて同点となり、更らに中田の不調から北海に却つておされて居つたので、非常な苦戦であつたが、後半に入つて中田が漸く好調となると同時に、七回に二つの失策と、峰本の三塁打に二塁を還して試合を決定して了つた。が、楠本なき明石の攻撃力も北海と同様であり、峰本が一人指を痛めながら主將の貫録を示したことを賞讃したいと思ふと同時に北海の相馬投手がその剛球に明石を封じて善戦したことも賞讃して止まない。北海の敗因は四、五

回に於けるチャンスも逸したこと、七回に於ける二つの失策が基であつた。中田が後半好投して北海の肉薄を絶ち得なかつたならば明石亦敗者の位置に立つたかも知れなかつた。

準決勝戦

明石中學對大正中學

明石は楠本の不出場から、中田の連投となり前半制球力なく不安に思はれたが、後半に球速も増して堂々たるピッチングを示した。

而して、二回スクイズに依つて、一塁を先取した明石は大正藤村が疲労によつて球勢なく、その上カーブも意の如くならざるに乗じて、安打を集中して堂々と得点した。五回に

於ける二塁の加算は、前半に於て、明石の勝利を不動のものにして了つた。が、大正も、三度の機会を中田の曲球に封じられて、九回を通じて唯一つの安打を記録したのみであつて見れば、到底、勝算なきゲームであつたと云ひ得やう。

斯くして明石は二勝して明日の優勝戦に臨むことになつたが、楠本病み主將峰本が指を痛めて、遊撃から右翼に位置した關係上、遊撃に一大缺陷を持つチームとなつたことは、大なる痛手であり若し敗る、事あればこの方面から破綻が来るのではあるまいかと思はれた。唯だ僅に頼むは、中田の好投と攻撃力であるが、

果してその効果を發揮し得るや、否やを疑ふものである。

中京商業對松本商業

松商山崎投手の下手投げのシュートぎみの緩球は、得点を焦る中京打者に對して相當に成功して、前半完全に中京の攻撃を阻止したことは、偉とせねばならない。中京が五回に迎へたチャンスも、野手の好守に防ぎ得たので、一層に試合を樂にさせた一方、中京吉田投手がこの日の出来栄へは、香しくなく七つの四球を投じて居ることによつても、その不調が證明させると思ふが、松本商業にいま二息の打力がほしかつた。北原あたりの中堅どころが、今少

し打てたならば、或は中京より以上の苦戦に陥つて居つたと思ふ。六回松商が一塁を先取したが、中京も山崎投手の疲労からして、その緩球にも馴れて、來たのと吉田の二塁打に二塁を入れて、その貫録を示した後は、中京一日の長あり、八回に吉田が左中間に本塁打して一塁を加算して、この試合を決定して了つた。が、松商がかく迄強敵中京を苦しめ善戦した事は、賞讃して止まない。

中京が一塁を先取されて後、六回裏大野木が投手の逆を衝いた絶好なバンドが、中京の勝利を導いたものであり、又吉田が六回に於ける二塁打八回に於ける本塁打と、この二長

打をはなつて味方の得点を加算した事も、直接の勝因を爲したので、中京も吉田あつて始めてその力を示された感があり、而して明日は明石中學と對戦することとなり興味あるものとなつた。

優勝戦

中京商業對明石中學

甲子園球場に、稀有の大接戦を演じ、日本球界に大センセーションを捲起した此の両者が、奇しくも、亦神宮大會に、而も決勝戦に顔を合せたことは、大會をして益々有意義ならしめ、満都のファンを熱狂せしめたことは、無理からぬことであつた。吉田對中田兩投手の一騎打、

つたのチームがこの兩投手を、征服するから、勝敗の分れ目であつたが、攻撃に於て中京殊に全軍の攻撃力に一日の長があり、之が再度中京を優勝の榮冠を興へて了つたのであつた。中田の成績は、安打五、四球

五、吉田の成績は安打三、四球二、といふ極く僅少な差であつたが、これが試合を決定したのである。

兩軍投手が、程々疲労の影響もあり、二回に入つて明石は、定石により一點を取れば、その裏、中京も一點を返して同點となつた。三回、中京は、二分打に一點をリードした。兩軍投手の好投からして、一點の差は風次第であらねばなかつた。が、

明石は遂に、六回に入り、二死後二塁打、三塁打を放つて、同點として、ファンをしてその好守好投に全く辟はしめたが、七回裏中京は、チャンスを掴み、遂に決勝の一點を入れて辛勝した。

明石の敗因は、中田投手の疲労もあつたが、遊撃二塁に移動があり、こゝに連失が繰り返へされて中田を苦惱させた事も、見逃す事の出来ぬ原因であつた。三A對二といふスローアが示す如く、實際に優勝戦に相應した好ゲームであつた。惜むらくは、明石に楠本の健闘がなく只だ最終回に病める身を、ピンチ、ヒツターとして出たが、捕邪飛して敗れ

たこと、同勝したいと思ふ、その後、に兩軍ナインが意氣に於ても本堂々たる試合振りに接したことに對して、満腔の敬意を捧ぐものであることを告げてこの項を終る。

昭和九年八月十二日印刷
昭和九年八月二十日發行

〔非賣品〕

編輯兼發行人 宮 木 昌 常

甲 刷 人 鈴 木 貞 助

甲 刷 所 凡 人 社 印 刷 所

東京市神田區小川町三ノ一〇

發行所 明治神宮體育會